

2014.8.8 提出 視察報告書 町田市議会 個人視察（保守連合） 吉田つとむ  
視察先 日本海総合病院 地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構）  
実施日 平成 26 年 7 月 31 日

## 施設について

日本海総合病院は、山形県立日本海病院と酒田市民病院が一体化して出来た病院であり、合同した時点で、地方独立行政法人「山形県・酒田市病院機構」が運営する病院となっている。県災害拠点病院、がん診療連携拠点病院に指定されている。県内 5 地区の中で、庄内地方の中核病院として高度医療を担当する。

病院のベースは、旧山形県立日本海病院が拡張した形となり、旧酒田市民病院は、「日本海総合病院酒田医療センター」として高齢者医療を担当する。分院として機能するが、役割分担が明白になっている。

（いただいた、「病院概要 平成 26 年度」を添付しました）

## 所見

今回の視察では、医療センターは訪ねずに、日本海総合病院のみを訪れました。それは、医療センターがリハビリなどの目的設置であり、視察の緊急用件は少ないと判断したためです。

両病院の合同によって、酒田市内ベッド総数は減少していますが、合同した病院（日本海総合病院）のベッド数が充実したことで、対応しているようです。

栗谷理事長（院長）が直々にお話しいただきました。この日本海総合病院の統合を当事者として進めた人物であり、今日のその先頭にいる人材です。

県と市の病院が統合し、市側の院長であった人物が今、この病院の理事長（院長）として君臨するのも、この病院の発展経緯を示していると思いました。

理事長には、統合の歴史から、今後の課題に至るまで、さまざまなお話しをしていただきました。今回の視察にあたって、酒田市議会の現職議員の皆さんと一緒に視察させて頂いたことも、そうした側面を生んでいただいたものと理解しています。お世話になりました。

病院の機能で最も重要な点は、医師と看護師を必要十分な条件で確保するこ

とにあるでしょう。

医師の確保対策では、単身医師用宿舎が広大な敷地内に確保してありました。新築で、安価な家賃、駐車場料を含めて医師が務める病院の付随施設として満足いくものでしょう。

内外での病院説明会、見学会が充実しており、その実績の説明を行っていただきました。

医学生の実習の随時受け入れでも、旅費・宿舎・食事の分野などでの優遇措置が充実していました。

県や保健所主催の見学会では、自治医科大の見学が組織的に行われていました。

連携医科大学では、地元の山形大学から広域連携医療実習が行われており、東北大学からは地域医療実習が行われていました。採用実績につながっていました。

合せて、施設敷地内の保育園建物にも訪れました。入園はオーバー状態で、利用者同士で調整が行われているようです。

141名の医師がそろっていました。医療センターは別途3名です。

翻って、町田市民病院の医師・看護師確保はどうか、医師は確保されていると言うのが市民病院の考えですが、機会を見て実情を問うて見たいと思います。

地域の医療ネットワークでは、医師会がこの統合に賛成したのも、現状の運営にみあったものになっていました。地域医療のピラミッドが一本になって確立したところに意義があったのでしょうか。

他に、酒田市立八幡病院というものが別にありました。敢えて、質問に入れましたが、町村合併の経過で過去に町立病院であったものが、市に引き継がれていました。経営状況は敢えて伺いませんでした。町田市は単一の町田市民病院があるのみであり、ここでの地域病院の問題や今後を問う立場にはないと判断したものです。

また、患者の平均入院の数について伺いました。決まったものではなく、病種によっても異なるものかもしれませんが、その日数が少ないほど、医療単価は高いようです。つまり、第3種医療機関の病院としては、目標を達成しているようでした。

病床数は、646であり、看護師数は563でした。

ちなみに、別途に、病床数が 114、医師が 3 名、看護師が 38 名、介護士が 22 名とのことでした。

また、尋ねたことでは、今は経営的にも充実しているが、団塊世代が高齢時期に至った 10 年後は、まったく違った状況になっているとの認識でした。様々なマイナス要因が生じることを予測し、今からその対策を練っておられるところに、日本海病院の先見性があるようです。